

日韓漢字音の対照研究

— 子音（初声と終声）の対応を中心に —

金 珉秀*

A Comparative Study of the Sounds of Chinese Letters in Korean and Japanese: Initial Consonants and Final Consonants

KIM Minsoo *

Abstract

This paper focuses on the similarity between the sounds of Chinese letters in Korean and Japanese and examines the sounds of Chinese letters in Korean that correspond to the sounds of Chinese letters from 「あ 行」 to 「ら 行」 in Japanese. The correspondence between Chinese letters in Japanese and Korean is considered by focusing in particular on consonants, and it is demonstrated that there is a regularization in correspondence between Chinese letters in Korean and Japanese. Causes of mutual differences are explored from the viewpoint of the point of articulation and manner of articulation of Korean consonants

キーワード：日韓漢字音、対応規則化、子音、調音点、調音方法

1. はじめに

日本漢字語の読み方には音読みと訓読みがあるが、音読みは中国から漢字の形とともに伝えられた漢字の発音、訓読みとはその漢字の義（意味）に対応する元からの日本語の単語のことである¹⁾。また、音読みはさらに呉音、漢音、唐音の区別があり、たとえば「行」の字は、呉音では「ギョウ（行列：ぎょうれつ）」、漢音では「コウ（行動：こうど

う）」、唐音では「アン（行脚：アンギャ）」と言う。これは中国から輸入した時代と地域が違ったためであるが²⁾、字によって呉音だけを使うものもあれば、漢音だけを使うものもあって、規則的ではない。

一方韓国では、中国から入ってきた音読みだけを使っており、基本的に漢字1文字に付き、1つの読み方しかない。たとえば「行」は韓国語で「행」と読むが、「行列→행렬」、「行動→행동」のように「行」はすべて「행

* 情報コミュニケーション学部非常勤講師、Tsukuba Gakuin University

と発音する。中には「金→김・금」、「反省→반성」、「省略→생략」のように二つの読み方があるものもあるが、このようなものはごくわずかである。また、韓国漢字音は日本漢字音の読み方から一定の規則を導き出すことができる。たとえば日本語の「家(か)」は、韓国語では「가」と発音することから、同じ「か」という音読みをもつ日本語の「加・可・仮・価・歌」もすべて韓国語で「가」と発音することが予測できるのである。このように日韓の漢字音が似ているのは、漢字音が北京方言においてかなり変化したのに対し、日本と韓国では古い音をよく保存しているためである(油谷幸利(2005:50))³⁾。

そこで、本稿では日韓漢字音の類似性に注目し、日本人韓国語学習者における韓国漢字語教育の観点から日韓漢字音の対照研究を行う。これまでの先行研究は韓国漢字音に対応する日本漢字音を考察したものがほとんどであるが、日本漢字音に対応する韓国漢字音を考察することにより、日本人母語話者の韓国漢字語学習のさらなる向上が期待できると考えられる。未学習漢字語の発音を予測できるようにするという点では従来の研究に似ているが、母語である日本語力を韓国漢字語の学習へ生かすことにより、韓国語学習への負担を減らすことができるとい点ではより効率的な方法であると考えられる。

本稿では、特に日本漢字音に対応する韓国

漢字音の子音(初声と終声)の対応関係を中心に考察し、互いの共通点、相違点を明らかにする。また、相違点については韓国語子音の音声的な特徴、つまり、調音点と調音方法からその原因を探ることにする。

2. 韓国語の子音の分類

日本と韓国の漢字は中国漢字の影響を受けており、互いの漢字音は非常に似ている。たとえば3. 2で考察するように、「か行」は基本的に韓国語の語頭子音「ㄱ」に対応している。そこで、たとえば「加・可・仮・価・歌(か)」は韓国語ではすべて「가」であり、「気・汽・奇・起(き)」もすべて「기」である。ところが、「危(き)」は韓国語で「위」と発音し、「下、夏、荷、河(か)」は韓国語で「하」と発音するので、「か行」は「ㅎ・ㅇ」とも対応することが分かる。一見、この韓国漢字音「ㄱ」と「ㅎ・ㅇ」の間にはあまり関連性がなさそうであるが、これは中国漢字音を受け入れる際に日韓の間で音声的なずれが生じたものであって、韓国語子音の調音点と調音方法からすると「ㄱ」と「ㅎ・ㅇ」は互いに似ていると考えられる。

つまり、表1によると、「ㄱ」と「ㅇ」は調音方法においてはそれぞれ閉鎖音、鼻音であるが、調音点からすると両方とも軟口蓋音である。また、「ㄱ」と「ㅎ」はそれぞれ調音方

表1 韓国語子音19個の調音点と調音方法(野間秀樹(2007:238)を一部修正した)⁴⁾

調音方法 \ 調音点	唇音	歯茎音	歯 茎 硬口蓋音	軟口蓋音	喉音
閉鎖音	ㄱ ㅋ ㆁ	ㄷ ㅌ ㄴ		ㄱ ㅋ ㆁ	
摩擦音		ㅍ ㅑ			ㅎ
破擦音			ㅍ ㅑ		
鼻音	ㅇ	ㄴ		ㅇ	
流音			ㄹ		

法と調音点は違うが、調音点と調音方法において隣接するもの同士であることが分かる。3節では日本語の「あ行」から「ら行」に対応する韓国語の語頭子音について考察するが、日韓漢字音が一致しない場合は、この韓国語子音の調音点と調音方法からその関連性を探ることにする。

3. 日本漢字音に対応する韓国語の語頭子音

韓国語の文字の組み合わせは基本的に「初声（子音）+中声（母音）」または「初声（子音）+中声（母音）+終声（子音）」であるが、本稿では日本漢字音に対応する韓国漢字音の子音の対応を中心に考察するため、母音の対応には触れない。母音の対応については別の機会に考察する。また、日本漢字音は『広辞苑』に拠ったが、「世」のように呉音（セ）、漢音（セイ）の両方がある場合は、原則として同辞典所載の慣用音の音を採った。韓国語では日本語の呉音、漢音のどちらの表記も一つの文字にしか対応しないため、日本漢字音の呉音、漢音の区別については特に表記しない。なお、韓国漢字音との対応規則化を考え、韓国語漢字音と一致するものやより近いものを優先的に取り上げた。また、日本語は漢字一文字をひらがなで書くと2文字以上になる場合もあるが、韓国語では原則的に漢字1文字はハンゲルでも1文字になることも特徴である。

3. 1 「あ行」に対応する韓国語の「ㅇ」

表2のように、日本語の「あ行」は基本的に韓国語の語頭子音の「ㅇ」に対応するが、「語彙（ごい）→어휘」のように「い」が韓国語の「ㅇ」に対応する例外的な場合もある。

表2 「あ行」と韓国語の「ㅇ」

日本語	韓国語	例
あ	아	亜
あい	애	愛・哀
あん	안 / 암	安・案／暗・闇・庵
い	이	異
いん	인 / 음	引・印・因／陰・淫・飲
う	우	右・宇・羽・雨
お	오	汚
おん	온 / 은 / 음	恩・温／穩・隱／音

3. 2 「か行・が行」に対応する韓国語の「ㄱ」

日本語には清音、濁音の区別があるが、韓国語は語頭に濁音が来ることがなく、平音、激音、濃音は語頭ではすべて無声音（日本語の清音）である。そこで、「か行（清音）」と「が行（濁音）」は両方とも韓国語の「ㄱ」に対応する（表3）。

また、「か行・が行」は表4のように「ㄱ」ではなく、韓国語の子音「ㅇ・ㅇ」に対応する場合もある。

表1によると、「ㄱ」と「ㅇ」は調音方法においてはそれぞれ閉鎖音と鼻音であるが、調音点からすると両方とも軟口蓋音であるという共通点を持っている。また、「ㄱ」と「ㅇ」はそれぞれ調音方法と調音点は違うが、調音点と調音方法において隣接するもの同士である。そこで、「か行」と「が行」は基本的には韓国語の「ㄱ」に対応するが、音的に隣接している「ㅇ・ㅇ」にも対応していると考えられる。

3. 3 「さ行・ざ行」に対応する韓国語の「ㅅ・ㅆ」

表5のように、「さ行・ざ行」は原則的に韓国語の「ㅅ・ㅆ」に対応するが、「さ行」が韓国語の「ㅆ・ㅆ・ㅇ」に対応する場合や

表 3 「か行・が行」と韓国語の「ㄱ」

日本語	韓国語	例	日本語	韓国語	例
か	가 / 과	加・可・仮(假)*・価(價)・家・歌／果・科・課・過	が	가	駕
かん	간 / 감 / 권	干・間・幹／甘・感／勸・卷			
き	기 / 계 / 규 / 귀	企・気(氣)・汽・奇・起・基・期・機／季／規／鬼・貴	ぎ	기	技・欺
く	구	九・区・句・駆	ぐ	구	具
くん	군	君	ぐん	군	軍・郡・群
こ	고 / 기 / 개 / 구	古・固・孤・庫・故・雇・顧／己／個／拘・構・購			

* () 内の漢字は韓国の漢字表記であり、中国や日本と違う表記のものもある。

表 4 「か行・が行」と韓国語の「ㅎ・ㅇ」

日本語	韓国語	例	日本語	韓国語	例
か	하 / 화	下・夏・荷・河／火・花・華・貨・靴・禍	が	하 / 화 / 아	賀／画(畫)／我・餓・牙・雅
かく	학 / 핵 / 혁 / 혁	括・確／核／獲／革	がく	학	学(學)
き	희 / 휘 / 위	希(稀)・喜／揮／危	ぎ	위 / 의 / 희	偽／義・議・儀・疑・擬／戲・犧
			ぐ	우	愚
けい	형 / 혜	兄・刑・形・型・螢／恵	げい	예	芸
こ	호	戸・呼・湖	ご	후 / 호 / 오 / 어	後／護／五・午・誤／語

「ざ行」が「ㅈ・ㅊ・ㅇ」に対応する場合もある(表6)。

さらに、「地図(ちず) - 지도」、「頭痛(ずつう) - 두통」の「ず」が韓国語の「ㅈ」に対応する場合もある。しかし、この「地図(ちず)」の「ず」は「企図(きと) - 기도」のように日本語においても「と」と読む場合があり、「頭」も「頭皮(とうひ) - 두피」のように「とう」と読む場合がある。これは韓国語が漢字1文字に付き1つの発音しか持たないので、「図」はすべて韓国語で「도」、

「頭」はすべて「두」と読むからである。

3. 4 「た行・だ行」に対応する韓国語の「ㄷ・ㅌ・ㅍ・ㅍ」

表7のように「た行」は韓国語「ㄷ・ㅌ・ㅍ・ㅍ」に、「だ行」は韓国語の「ㄷ・ㅍ」に対応することが分かる。

また、「耐(たい) - 내」、「匿(とく) → 닉(익)」、「奴・努・怒(ど) → 노」、「諾(だく) - 닉」、「泥(でい) → 니(이)」のように「た行・だ行」の漢字音が韓国語の「ㄷ」

表5 「さ行」と韓国語の「ㅅ」／「ざ行」と韓国語の「ㅈ」

日本語	韓国語	例	日本語	韓国語	例
さ	사	査・砂・詐・唆・些	ざ	좌	座
さつ	살	殺	ざつ	잡	雜
し	시 / 사	市・示・始・施・視・試／士・史・四・死・使・思	じ	지 / 자	持／字・自・慈・磁
しき	식	式・識			
しつ	실	失・室			
しゃ	사	社・舍・射・斜・写・謝			
しゆ	수	手・守・狩・首・須	じゆ	주	呪
しゆう	수 / 습 / 집	修・収・秀・拾・習・襲／集	じゆう	주 / 중 / 중	住／中・重／従・縦
しゆん	순	瞬	じゆん	준	準
しよ	서 / 소	書・庶・暑・署／所	じよ	조	助
せい	세 / 서 / 성 / 생	世／西／成・声・姓／生・牲			
そ	소	素・疎・甦・蘇・疎・訴	ぞう	조	造
そく	속	速・束			

表6 「さ行」と韓国語の「ㅅ・ㅌ・ㅇ」／「ざ行」と韓国語の「ㅈ・ㅊ・ㅇ」

日本語	韓国語	例	日本語	韓国語	例
さ	좌 / 차	左／差			
さい	재 / 제 / 채 / 처 / 최	再・才・裁／祭・際・／菜・債・採／妻／最			
さく	책	策			
さつ	찰 / 촬	擦／撮			
さん	참 / 찬	慘／贊	ざん	참	斬
し	지 / 자 / 치	支・止・志・指・紙・脂／子・刺・資／齒	じ	시 / 사 / 차 / 치 / 이 / 아	時／寺・似・事・辞／次／治／耳／尼
しつ	질 / 집 / 칠	質・叱・疾／執／漆	じつ	실	実
しゃく	척	尺	じゃく	약	弱・若
しゆ	주 / 중 / 취	主・酒／種／取・趣	じゆ	수 / 유	寿・受・授・需／儒
しゆう	주 / 중 / 중 / 집 / 추 / 취 /	州・周・週／衆／宗／集／秋／就・臭	じゆう	유 / 충 / 중	柔／充／銃
しゆん	춘 / 춘	俊／春	じゆん	순	純・順・旬・巡・循・殉
せん	전 / 잠 / 천 / 염	戰・栓・專／潛／泉・千・淺・川・薦／染	ぜん	선	善・繕

に対応する場合もある。これも子音「ㄴ」と「ㄷ」の調音点が共通しているからだと考えられる(表1)。つまり、「ㄴ」と「ㄷ」は調音法からすると、それぞれ鼻音と閉鎖音であるが、調音点の観点からすると同じ歯茎音であることから、このような現象が起こるもの

と推測される。また、「男(だん)→남」のように「だ行」が韓国語の「ㄴ」に対応する場合もあるが、これは韓国語が基本的に漢字一文字に一つの漢字音を持つことから「次男(じなん)」のような「なん」の漢字音を採ったものと考えられる。

表7 「た行」と韓国語の「ㄷ・ㅌ・ㅊ・ㅌ」 / 「だ行」と韓国語「ㄷ・ㅌ」

日本語	韓国語	例	日本語	韓国語	例
た	다/타	多/他			
ち	지/치	地・知・遲/値・恥・致			
ちゅう	주/중/추/충	宙・注・昼・柱・駐/中・仲/抽/虫(蟲)・忠			
ちょう	조/장/정/정/초/청	兆・朝・鳥・調/長・張・頂/徴・懲/超/庁・聴			
たい	대	帶・対・隊・待・貸	だい	대	大・代・台
たん	단	単・短・端・鍛	だん	단	団・段・断・壇
たん	담	担(擔)・淡	だん	담	談
つい	추	追・墜			
つう	통	通・痛			
てん	전/집/천/침	展・典/店/天/添	でん	전	伝・殿・田・電
と	도	途・都・塗・賭	ど	도	度
とく	독/덕/득/특	督/徳/得/特	どく	독	読・毒・独(獨)
とん	돈/둔	豚/屯	どん	돈	鈍

3. 5 「な行」に対応する韓国語の「ㄴ」

表8のように「な行」は「ㄴ」に対応することが分かる。()内は韓国語の頭音規則による表記であるが、韓国語の頭音規則とは子音「ㄴ」のあとに母音[i]や半母音[j]がくると「ㄴ」が無音になるという規則である。この頭音規則により、たとえば「軟(なん)」は韓国語では [n] が脱落し、「연」と発音する。また、「ニ [ni]」も「ㄴ」の[n]の音が脱落し、「이[i]」と発音する。このように表8の「ㄴ」は頭音規則が適用された表記であるので、「な行」の漢字音は韓国語の「ㄴ」に対応すると言える。

表8 「な行」と韓国語の「ㄴ」

日本語	韓国語	例
ない	내	内
なん	난/남/연	難/南/軟
に	이	二
にく	육	肉
にん	인/임	忍・認/任・妊
ねん	년(연)/념(염)	年/念
のう	뇌/농/능/남	脳・惱(惱)/濃・農/能/納

3. 6 「は行・ば行」に対応する韓国語の「ㅂ・ㅃ・ㅍ」

「は行・ば行」は表9に見るように韓国語の「ㅂ・ㅃ」に対応することから、音声的に似ている「は行」と韓国語の「ㅂ」は対応しないと考えられる。

また、「萌（ホウ）－맹」、「秒（ピョウ）－초」などのような例外的な対応もある。さらに、「ば行」は表10のように韓国語の「ㅍ」にも対応する。

3. 7 「マ行」に対応する韓国語「ㅍ」

日本語の「マ行」は表11のように例外なく、韓国語の子音の「ㅍ」に対応する。

本稿では日本漢字音の呉音と漢音の区別には触れないが、「ㅍ」は日本漢字音では呉音の場合は「マ行」に、漢音の場合は「バ」に対応するものが多い（油谷幸利（2005:56）³⁾。

3. 8 「ら行」に対応する韓国語の「ㄹ」

表12のように、「ら行」は原則的に「ㄹ」に対応するが、韓国語の発音規則には語頭に「ㄹ[r]」が来ないという語頭規則があるため、「ㄹ」を初声にもつ漢字語は「ㄴ」と発音する。たとえば、「路（ろ）」は語頭と語頭以外では、「도로（道路）」と「노선（路線）」のように発音が変わる。また、「ㄹ」のあとに[i]や半母音[j]を伴う母音がくると、さらに漢字音「ㄴ」が無音になる。たとえば、「理（り）」は語頭と語頭以外では、「지리（地理）」と「이과（理科）」のように発音が変わる。

4. 日本漢字音に対応する韓国語の末子音（終声）

4. 1 「～く・～き」と韓国語の末子音「ㄱ」

日本語の漢字音「～く」と「～き」は、基本的に韓国語では末子音「ㄱ」に対応する。

表9 「は行・ば行」と韓国語の「ㅂ・ㅃ」

日本語	韓国語	例	日本語	韓国語	例
はい	배 / 패 / 페	拝・杯・俳・背・配／敗／胚・廢	ばい	배 / 패	倍・培・賠／貝
はく	박 / 백	拍・泊・舶・博・薄／白・伯	ばく	박 / 폭	縛／爆
はつ	발	発（發）・撥・髮・鉢	ばつ	발 / 벌	拔／罰・伐
はん	반 / 범 / 판	反・半・般／犯・範／判・版	ばん	반 / 반	番／盤
ひ	비 / 피	比・非・秘・飛／皮・疲・避	び	비	備・鼻
ひょう	빙 / 표 / 평	氷／表・票・漂・標／評	びょう	병	病
ひん	빈 / 품	貧・賓・頻／品	びん	병	瓶
ふ	부 / 보 / 포	夫・父・婦／普・譜／布・怖	ぶ	부	部
へい	병 / 평	兵・併・並／平			
へん	변 / 반	変・辺／返	べん	변	弁
ほ	보	保・補	ほ	부	簿
ほう	보	宝・報・褒	ほう	부	剖
ほく	북	北	ほく	박	撲
ほん	본 / 번 / 분	本／翻（轆）／奔	ほん	범 / 분	凡／盆

表10 「ば行」と韓国語の「ㅁ」

日本語	韓国語	例
ば	마 / 매	馬／罵
ばく	막 / 맥	漠／麦
び	미	尾・眉・美・微
びょう	묘	描
びん	민	敏
ぶ	무	武・撫・舞
べい	미	米
べん	면	勉
ぼ	모 / 묘	母・募・暮・慕／墓
ぼう	모 / 무 / 묘 / 망	貌・謀／貿／描／亡・忙・忘・望
ぼく	목	牧・木

表11 「ま行」と韓国語の「ㅁ」

日本語	韓国語	例
ま	마	麻・摩・磨・魔
まい	매	每・枚・埋・妹
まん	만	万(萬)・満(滿)
み	미	未・味・魅
む	무 / 모	務・無・霧／矛
めい	미 / 명	迷／名・命・明・盟・鳴
も	모	模
もう	몽 / 망 / 맹	蒙／妄／孟／盲・猛
もん	문	文・問・門・紋

表12 「ら行」と韓国語の「ㄹ」

日本語	韓国語	例
ら	라 (나)	裸・羅
らい	래 (내) / 뢰 (뇌)	来／雷・賴
り	리 (이)	利・吏・里・梨・理・裏・離
りゅう	류 (유) / 룡 (용) / 립 (입)	柳・留・流・硫・溜／竜／粒
りょう	료 (요) / 량 (양) / 령 (영) / 립 (엽)	了・料・僚／両・良・涼・量／領／獵
るい	루 (누) / 류 (유)	涙・累・墨／類
れい	레 (예) / 려 (여) / 령 (영) / 령 (냉)	礼(禮)・例／勵・麗／零・靈・齡／冷
ろ	로 (노)	炉・路・露
ろく	록 (육) / 록 (낙)	六／録

たとえば「悪・握(あく)→악」、「各・角・覚(覚)・閣(かく)→각」、「速・束(そく)→속」、「読・毒・独(獨)→독」、「北(ほく)→북」、「幕・膜(まく)→막」、「約・葉・躍(やく)→약」、「絡・落・楽(らく)→락」などのように「～く」は韓国語の「ㄱ」に対応する。また、「域(いき)→역」、「駅・疫(えき)→역」、「劇(げき)→극」、「激(げ

き)→격」、「液・易(えき)→액」、「益(益)(えき)→익」、「式・識(しき)→식」、「壁・癖(へき)→벽」などのように「～き」も韓国語の「ㄱ」に対応する。「副(ふく)→부」、「借(しゃく)→차」のように例外的なものもあるが、日本語の「～く・～き」のほとんどは韓国語の末子音「ㄱ」に対応すると考えられる。

4. 2 日本語の「～ち・～つ」と韓国語の末子音「ㄷ」

日本語の漢字音「～ち・～つ」は最も古い中国音を保存している場合であり、韓国語はハングル創製当時から漢音[t]の[l]への変化が起こりつつあり、現在の形に至ったという(油谷幸利 (2005: 61))³⁾。たとえば、「一(いち)→일」、「七(しち)→칠」、「八(はち)→팔」、「吉(きち)→길」のように「～ち」は韓国語の末子音「ㄷ」に対応する。また、「～つ」も韓国語の末子音「ㄷ」に対応する。たとえば、「逸(いち)→일」、「渴(かつ)→갈」、「殺(さつ)→살」、「失・室(しつ)→실」、「説・雪(せつ)→설」、「卒(そつ)→졸」、「達(たつ)→달」、「脱・奪(だつ)→탈」、「秩・窒(ちつ)→질」、「鉄・哲・徹・撤(てつ)→철」、「突(とつ)→똥」、「發(發)・撥・髮・鉢(はつ)→밭」、「拔(ばつ)→밭」、「筆・必・匹(ひつ)→필」、「仏(ぶつ)→불」、「物(ぶつ)→물」、「末・抹(まつ)→말」などが挙げられる。

ただし、「冊(さつ)→책」、「刷(さつ)→쇄」、「喫(きつ)→깍」、「泌(ひつ)→미」のように例外的なものもある。「泌」は「分泌(ぶんぴつ)」以外にも「泌尿器(ひにょうき)→미뇨기」のように「ひ」という漢字音を持つことから、「미」に対応すると考えられるが、そのほかは規則的ではない。また、「圧(あつ)・接(せつ)・撰(せつ)・執(しつ)・雑(ぞつ)」は、それぞれ「압·접·섭·집·잡」に対応しており、「～つ」が韓国語の末子音「ㄷ」に対応している例である。しかし、これらの例外を除けば、「～ち・～つ」は基本的に韓国語の末子音「ㄷ」に対応すると考えられる。

4. 3 日本語の「～ん」と韓国語の末子音「ㄴ・ㅇ」

油谷幸利 (2005: 58) によると、韓国語においては古い中国音の[m]と[n]の区別をよ

く保存しているが、日本語では両者の区別は存在しないという³⁾。これは表13を見ても日本語では[m]と[n]を区別しないのが明らかである。

このように、日本漢字音「～ん」は韓国語の「ㄴ」と「ㅇ」に対応するが、どの「～ん」が韓国語の「ㄴ」、「ㅇ」に対応するかは個別に覚えるしかない。一方、「ㄴ」、「ㅇ」で終わっている韓国漢字語はすべて「ん」に対応するので、韓国漢字音から日本漢字音を推測するのは容易い。

さて、日本語の「ん」は[p, b, m]の前では[ɱ]、[t, d, n]の前では[n]、[k, g, ɣ]の前では[ŋ]のように実現される。「ん」の具体音声[m]、[n]、[ɱ]は、音声学的にはいずれも鼻音であるということと共通の特徴をもっているが、それが現れるのは、実は調音位置によ

表13 日本語の「～ん」と韓国語の「ㄴ・ㅇ」

日本語	韓国語	例
あん	안	安・案
	암	暗・闇・庵
いん	인 / 은 / 운 / 윈	引・印・因・姻 / 隱 / 韻 / 院
	음	陰・淫・飲
かん	간	干・刊・看・間・幹
	감	甘・敢・感・監・鑑
たん	단 / 탄	単・短・鍛 / 嘆
	담 / 탐	担(擔)・淡 / 探
だん	단 / 탄	団・段・斷・壇 / 彈
	담	談
ちん	진	珍・陳・鎮
	침	沈
らん	란 (난)	亂(亂)・卵・蘭・欄
	람 (남)	覽・濫・藍
りん	린 (인)	隣・燐
	림 (임)	林・淋・臨

て決まっているのである⁵⁾。一方、日本語の「ん」に音声的に対応する韓国語の「ㄴ・ㄹ・ㅇ」はすべて鼻音であるが、調音点によるとそれぞれ唇音、歯茎音、軟口蓋音であり、日本語と違って表記上においても区別しているのである。ところが、表13では、「～ん」は基本的に「ㄴ・ㄹ」に対応しており、日本漢字音の「～ん」が韓国語の「ㅇ」に対応する例は「瓶(びん) - 병」くらいである。このことから、日本漢字音は「～ん」は基本的に韓国語の末子音「ㅇ」に対応しないことが分かる。

4. 4 日本語の「～い・～う」と韓国語の末子音「ㅇ」

油谷幸利(2005: 58)は、韓国語においては古い中国音の[m]と[n]の区別をよく保存しているが、日本語では両者の区別は存在しないとし、[ŋ]も当時の日本人の耳には聞き取れなかったが、何かの音があるという感覚はあるらしく、「う、い」で写しているという³⁾。つまり、古い中国語の[ŋ]を日本語では「～い・～う」で、韓国語では「ㅇ」として表記しているのである。

さて、4. 3節では韓国語の末子音「ㅇ」は日本漢字音は「～ん」に対応しないことを述べたが、表14によると、日本漢字音「～い・～う」が韓国語の「ㅇ」に対応すること

表14 日本語の「～い・～う」と韓国語の「ㅇ」

日本語	韓国語	例
けい	경 / 형	經・頃・敬・景・傾・慶・警／兄・刑・形・型・螢
せい	성 / 생 / 정	成・声・姓・性・誠／生・牲／正・政・精・靜・整
てい	정	廷・定・貞・訂・庭・停・偵
へい	병 / 평	兵・併・並／平
おう	왕 / 양 / 응	王・往／央／応(應)
くう	공	空
そう	상 / 쌍 / 승 / 승	相・爽・喪・想／双／送／僧
ぞう	장 / 증 / 상	藏・臟／増・憎・贈／像・象
とう	동 / 당 / 등 / 통 / 탕	冬・東・凍・棟／当・糖／灯・登・等・騰／統／湯
どう	동 / 당	同・洞・胴・動・童・働・銅／堂
ふう	봉 / 풍	封／風
きゅう	궁	弓・宮・窮
きょう	강 / 경 / 광 / 공 / 향 / 흥 / 황	強／京・經・競／狂／共・恐／郷・響／凶・胸／況
しゅう	중 / 중	衆／宗
じゅう	중 / 중 / 중 / 중 / 횡	中・重／從／充／銃／縱
しょう	상 / 승 / 승 / 장 / 증	商・傷・賞／訟／承・昇・勝／将・章・障／症・証
じょう	상 / 성 / 승 / 장 / 정 / 증 / 양	上・状・常／城／乘／場／淨・情／蒸／讓・釀
ちゅう	중 / 중 / 장 / 정 / 정 / 청	中・仲／虫(蟲)・忠／長・腸／頂／徵・懲／庁・聽
ひょう	평 / 빙	評／氷

が分かる。

ところが、日本漢字音の「～い・～う」がすべて韓国語の末子音「ㅇ」に対応するわけではない。韓国語では長母音は発音しないという特徴があるので、たとえば、「憩・掲（けい）→계」、「世・勢（せい）→세」、「高・膏・稿・口・考（こう）→고」、「小・少・召・消・笑・焼（焼）（しょう）→소」のように長母音を発音しない場合もある。また、「業（ぎょう）→업」、「涉（しょう）→섭」、「獵（りょう）→렵（업）」のように、日本漢字音「～う」が末子音「ㅇ」に対応する場合もあるが、これについては4. 5節で考察する。

4. 5 日本語旧仮名遣いの「ふ」と韓国語の末子音「ㅇ」

油谷幸利（2005：62）によると、日本語の旧仮名遣いの「ふ」は日本語における音変化のために現代日本語においては単なる長音と区別が付かなくなっている³⁾。そして、表15のように、旧仮名遣いの「ふ」は韓国語の末子音「ㅇ」に対応することが分かる。「く」の右側の表記が旧仮名遣いである。

このように、日本語の旧仮名遣いの「ふ」が韓国語の末子音「ㅇ」に対応することは、3. 6節で考察したように、日本漢字音「は行」が韓国語の「ㅇ」に対応することからも推測できる。

ところで、4. 2節では日本語の「～ち・～つ」と韓国語の末子音「ㅇ」が対応することを述べたが、「雑（ぞつ）→잡」、「執（しつ）→집」、「立・粒（りつ）→립（업）」のように「～つ」が「ㅇ」に対応するものもある。これらの慣用音は「～つ」だが、「雑」の呉音が「ぞう < ざふ」（たとえば、「雑巾（ぞうきん）」）、「執」の漢音が「しゅう < しふ」（たとえば、「執着（しゅうちゃく）」）、「立・粒」の呉音・漢字音が「りゅう < りふ」（たとえば、「建立（こんりゅう）」、「粒子（りゅうし）」）だからであると考えられる。一方、

「圧（壓）（あつ）→압」、「湿（しつ）→습」、「撰（せつ）→섭」、「接（せつ）→접」のように旧仮名遣いがない場合にも「～つ」が韓国語の末子音「ㅇ」に対応する例外的なものもある。

5. 日韓漢字音の子音対応のまとめ

これまでの日本語の漢字音と韓国語の漢字音の語頭子音（初声）における対応関係をまとめると、表16の通りである。表16のように、日本漢字音の子音は、韓国語の子音「ㄱ・ㄴ・ㄷ・ㄹ・ㄱ・ㄴ・ㄷ・ㄹ・ㄱ・ㄴ・ㄷ・ㄹ」（平音）と「ㅈ・ㅊ・ㅌ・ㅍ・ㅎ」（激音）に対応することが分かる。

ところで、韓国語子音には「ㅃ・ㅅ・ㅆ・ㅈ・ㅊ・ㅌ・ㅍ」のような濃音もあるが、これらに対

表15 日本語の旧仮名遣いの「ふ」と韓国語の末子音「ㅇ」

日本語	韓国語
甲：コウ < カフ	갑
怯：キョウ < ケフ	겁
及・急・級・給：キウ < キフ	급
業：ギョウ < ゲフ	업
協・狭（狭）・脅：キョウ < ケフ	협
合：ゴウ < ガフ	합
吸：キウ < キフ	흡
拾・習・襲：シュウ < シフ	습
集：シュウ < シフ	집
涉：ショウ < セフ	섭
十：ジュウ < ジフ	십
答・踏：トウ < タフ	답
塔：トウ < タフ	탑
法：ホウ < ハフ	법
入：ニウ < ニフ	입
獵（獵）：リョウ < レフ	렵（업）

表16 日本漢字音と韓国語漢字音の語頭子音（初声）の対応関係

日本語	韓国語の語頭子音	
	日本語と一致	日本語と一致しない
あ行	ㅇ	
か行	ㄱ	ㅎ・ㅇ
が行	ㄱ	ㅎ・ㅇ
さ行	ㅅ	ㅅ・ㅌ
ざ行	ㅅ	ㅅ・ㅌ・ㅇ
た行	ㅌ・ㅍ・ㅍ・ㅍ・ㅌ	ㅌ
だ行	ㅌ・ㅍ	ㅌ
な行	ㄴ (ㅇ)	
は行		ㅍ・ㅍ
ば行	ㅍ	ㅍ・ㅍ
ま行	ㅍ	
ら行	ㄹ	

応する漢字語はほとんどなく、「氏（し）－刈」、「喫（きつ）－刈」くらいである。そして、日本語と一致しない語頭子音の場合は、表1の調音点や調音方法において一致するものまたは隣接するもの同士であると考えられる。

また、日本漢字音と韓国漢字音の末子音

表17 日本漢字音と韓国語漢字音の末子音（終声）の対応関係

日本語	韓国語の末子音
～く・～き	ㄱ
～ち・～つ	ㅌ
～ん	ㄴ・ㅇ
～い・～う	ㅇ
～う（旧仮名遣いの「ふ」）	ㅍ

（終声）における対応関係は表17の通りである。

参考文献

- 1) 伊藤英人 (2007) 「漢字音教育法」『韓国語教育論講座 第1巻』（野間秀樹編著）くろしお出版、p.575
- 2) 亀井 孝・河野六郎・千野栄一編著 (1996) 『言語学大辞典』三省堂、p.241
- 3) 油谷幸利 (2005) 『日韓対照言語学入門』白帝社
- 4) 野間秀樹 (2007) 「音声学からの接近」『韓国語教育論講座 第1巻』（野間秀樹編著）くろしお出版
- 5) 中條 修 (2007) 『日本語の音韻とアクセント』勁草書房、p.66